

カメラ初心者のためのデジタル写真講座



※上記イラストはミーティングのイメージです

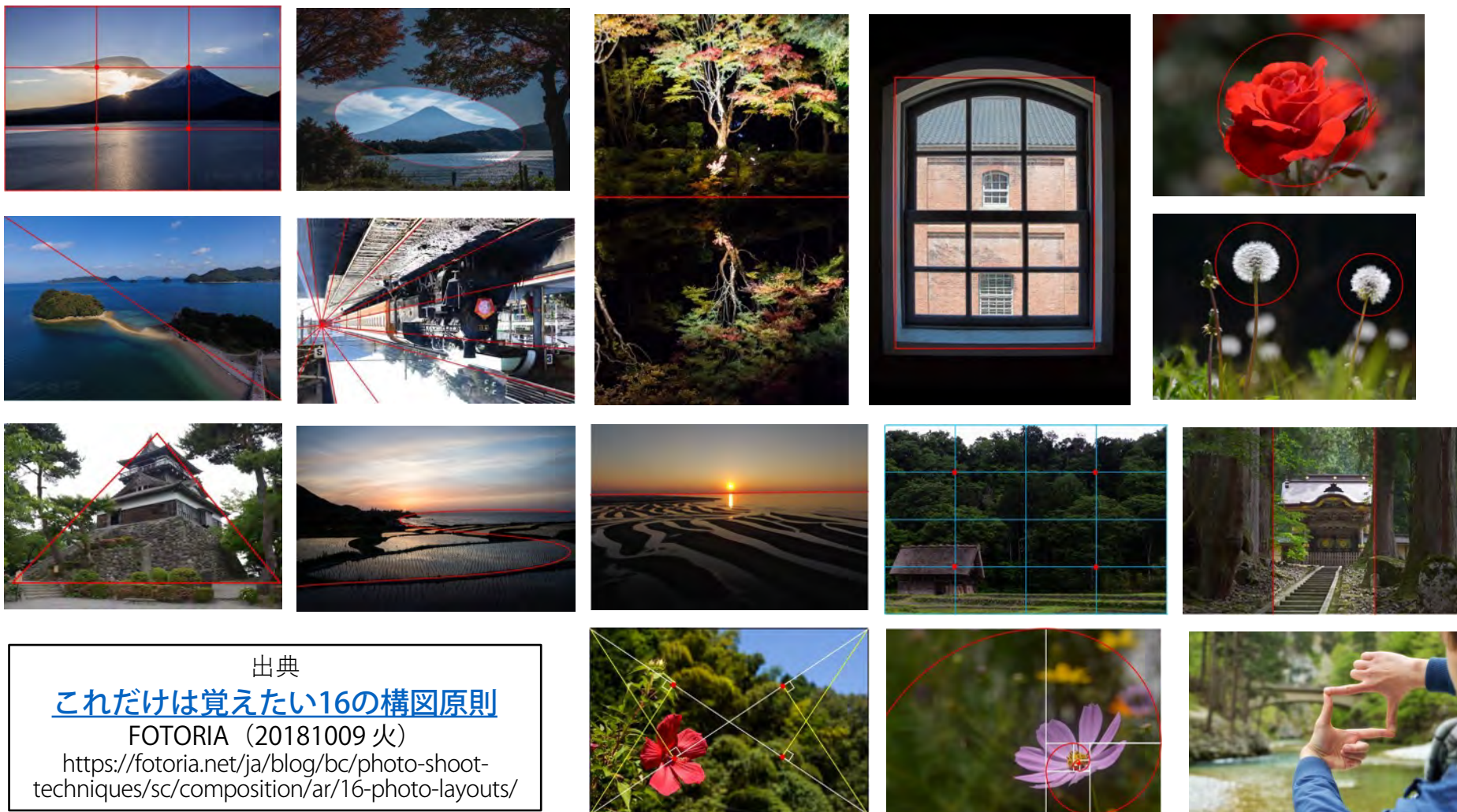
第3回デジタル写真講座

第1章 基礎編

第4部 撮影の基本

(構図・アングル・カメラの設定)

これだけは覚えてたい15の構図原則



これだけは覚えていたい15の構図原則

#1 基本構図編

（これだけで写真が変わる）

- 1.三分割構図
- 2.トンネル構図
- 3.シメントリー構図

#2 応用構図編

（写真の世界でよく耳にすることのある構図）

- 4.額縁構図
- 5.日の丸構図
- 6.対角線構図
- 7.消失点構図（放射線構図）
- 8.対比構図
（大小パターン構図）
- 9.三角構図
- 10.アルファベット構図
- 11.二分割構図
- 12.四分割構図
- 13.サンドイッチ構図

#3 レアな構図

（こだわりのある構図）

- 14.黄金分割構図
- 15.黄金螺旋構図
（フィボナッチ螺旋構図）

#4 まとめ

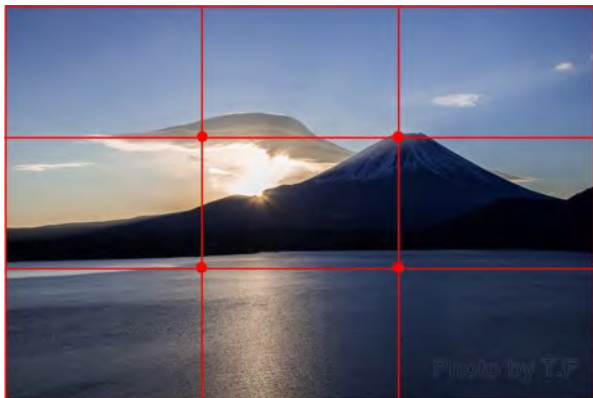
出典

[これだけは覚えていたい16の構図原則](https://fotoria.net/ja/blog/bc/photo-shoot-techniques/sc/composition/ar/16-photo-layouts/)

FOTORIA (20181009 火)

<https://fotoria.net/ja/blog/bc/photo-shoot-techniques/sc/composition/ar/16-photo-layouts/>

これだけは覚えたい15の構図原則（1～2）



三分割構図

これは画面を縦横に三分割し、その交点に撮りたい被写体を配置するように意識して撮影する方法です。この方法で撮影するととてもバランスのとれた写真となります。基本中の基本の構図です。



トンネル構図

これは撮りたい被写体を焦点化したり立体感を出したりするために、木の枝等の障害物で囲んで撮影する構図です。風景写真を撮影するとき近くの木の枝を被写体の上にかぶせて撮影すると、これまでにない雰囲気の写真が撮れます。

出典

[これだけは覚えたい16の構図原則](https://fotoria.net/ja/blog/bc/photo-shoot-techniques/sc/composition/ar/16-photo-layouts/)

FOTORIA (20181009 火)

<https://fotoria.net/ja/blog/bc/photo-shoot-techniques/sc/composition/ar/16-photo-layouts/>

これだけは覚えたい15の構図原則（3～4）



シメントリー構図

左右または上下対称の被写体を撮影するときにはバランスをとって撮影する構図です。対象物を撮影する場合バランスがずれていると不安定な画像となります。

（動きや不安感を出すためにあえてバランスをずらしてアシンメトリーに撮影する場合もあります。）



額縁構図

画面の4面を窓枠や壁等の障害物で囲んで、まるで額縁の中に被写体があるようにした構図です。特徴のない平坦な被写体を額縁構図で撮影することで写真を引き締めることができます。

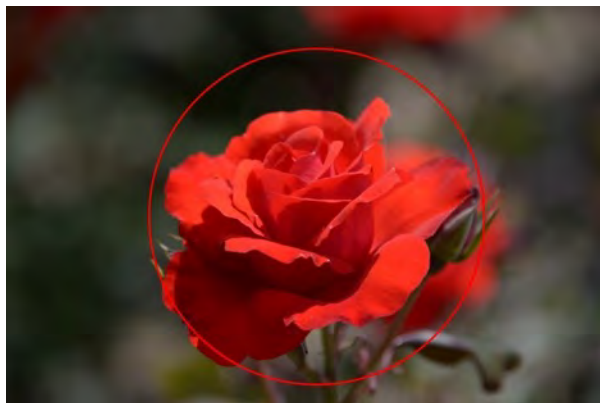
出典

[これだけは覚えたい16の構図原則](https://fotoria.net/ja/blog/bc/photo-shoot-techniques/sc/composition/ar/16-photo-layouts/)

FOTORIA (20181009 火)

<https://fotoria.net/ja/blog/bc/photo-shoot-techniques/sc/composition/ar/16-photo-layouts/>

これだけは覚えたい15の構図原則（5～6）



日の丸構図

被写体をど真ん中に置き、他をぼかし等で目立たなくして被写体を強調する構図です。

平凡すぎて飽きられやすい構図のため、印象に残る写真を撮影することが難しい構図です。



対角線構図

狙いたい被写体を対角線状に配置して撮影する構図です。立体感や奥行き、ぼかしを印象付ける場合等に使われます。

出典

[これだけは覚えたい16の構図原則](https://fotoria.net/ja/blog/bc/photo-shoot-techniques/sc/composition/ar/16-photo-layouts/)

FOTORIA (20181009 火)

<https://fotoria.net/ja/blog/bc/photo-shoot-techniques/sc/composition/ar/16-photo-layouts/>

これだけは覚えたい15の構図原則（7～8）



消失点構図（放射線構図）

絵画でもよく使われている遠近感を出すための構図です。鉄道写真や町並みの撮影によく使われています。三分割構図との組み合わせでバランスの良い写真にすることができます。



対比構図（大小パターン構図）

狙った被写体を強調したい場合や写真のバランスを取るために被写体と対比させるように他の被写体を配置して撮影する構図です。

出典

[これだけは覚えたい16の構図原則](https://fotoria.net/ja/blog/bc/photo-shoot-techniques/sc/composition/ar/16-photo-layouts/)

FOTORIA (20181009 火)

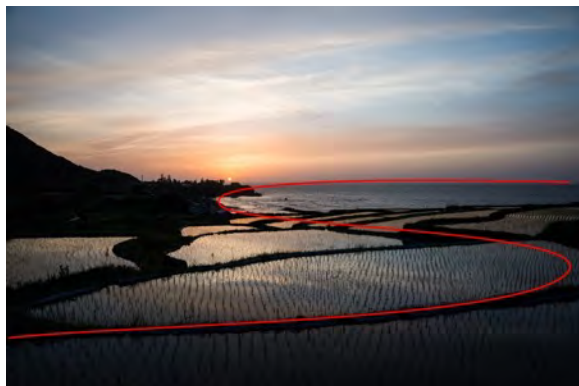
<https://fotoria.net/ja/blog/bc/photo-shoot-techniques/sc/composition/ar/16-photo-layouts/>

これだけは覚えてたい15の構図原則（9～10）



三角構図

ダビンチのモナリザやボッティチェリのビーナスの誕生など絵画でもよく使われている構図で、被写体が三角形形状に見えたり配置されたりするようにした構図で安定感のある写真となります。



アルファベット構図

アルファベットの文字のように見える構図です。よく使われる構図がS字構図です。

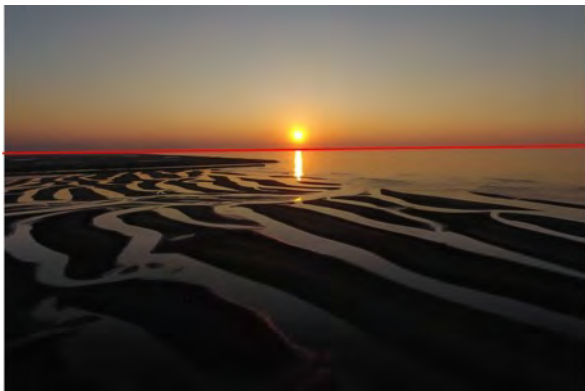
出典

[これだけは覚えてたい16の構図原則](https://fotoria.net/ja/blog/bc/photo-shoot-techniques/sc/composition/ar/16-photo-layouts/)

FOTORIA (20181009 火)

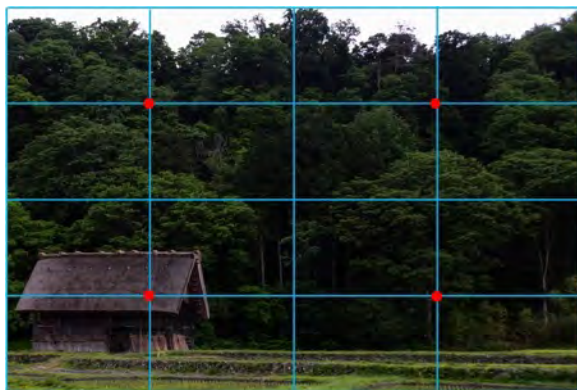
<https://fotoria.net/ja/blog/bc/photo-shoot-techniques/sc/composition/ar/16-photo-layouts/>

これだけは覚えてたい15の構図原則（1 1～1 2）



二分割構図

被写体を横または縦に二分割したように見える構図です。横分割では地平線や水平線を被写体にしたものによく使われています。



四分割構図

画面を縦横四分割にし、その交点に被写体を配置して撮影する構図です。特に三分割構図では被写体が中心に近すぎると感じる場合に四分割の中心線を除いた4点のどこかに被写体を配置する構図です。風景写真のようにじっくり構えて時間をかけて撮影できる状況で三分割構図での撮影と合わせて余裕がある時やいつもと違った構図で撮影しようと思ったときに使える構図です。

出典

[これだけは覚えてたい16の構図原則](https://fotoria.net/ja/blog/bc/photo-shoot-techniques/sc/composition/ar/16-photo-layouts/)

FOTORIA (20181009 火)

<https://fotoria.net/ja/blog/bc/photo-shoot-techniques/sc/composition/ar/16-photo-layouts/>

これだけは覚えてたい15の構図原則（13～14）



サンドイッチ構図

壁や木等で被写体を挟むように撮影する構図です。被写体を強調したりする場合に使う構図で、立体感や遠近感を出すときにも使えます。



黄金分割構図

4頂点から対角線に垂線を引いてできる交点に被写体を配置する構図で、三分割より外側で四分割より内側となる構図です。

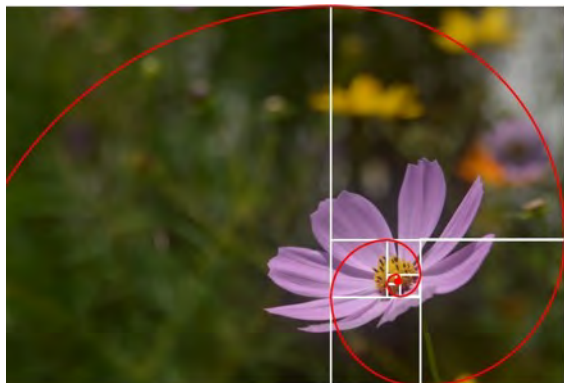
出典

[これだけは覚えてたい16の構図原則](https://fotoria.net/ja/blog/bc/photo-shoot-techniques/sc/composition/ar/16-photo-layouts/)

FOTORIA (20181009 火)

<https://fotoria.net/ja/blog/bc/photo-shoot-techniques/sc/composition/ar/16-photo-layouts/>

これだけは覚えたい15の構図原則（15）



黄金螺旋構図（フィボナッチ螺旋構図）

幾何学でいう黄金比でつくられた長方形（1 : 1.618・・・）を正方形で分けていくことによりフィボナッチ数列からなる螺旋ができ、その最終点に被写体を配置する構図です。このフィボナッチ螺旋は自然界のいたるところに見いだすことができ、この構図は視覚的に心地よい配置となるといわれています。

出典

[これだけは覚えたい16の構図原則](https://fotoria.net/ja/blog/bc/photo-shoot-techniques/sc/composition/ar/16-photo-layouts/)

FOTORIA（20181009 火）

<https://fotoria.net/ja/blog/bc/photo-shoot-techniques/sc/composition/ar/16-photo-layouts/>

【カメラアングルの決め方】 効果的に写真の構図を使い分けよう



効果的に写真の構図を使い分けよう

「一眼レフで風景写真をキレイに撮りたい」「自分で撮った写真がいまいちパツとしない」「いつも同じような写真になってしまう」このように悩んだことはありませんか？目の前に広がる自然の魅力を写真から伝えるためにはどうしたらいいのでしょうか。（つづく）

出典

[【カメラアングルの決め方】](#)

[効果的に写真の構図を使い分けよう](#)

FOTORIA (20181005 金)

<https://fotoria.net/ja/blog/bc/photo-shoot-techniques/sc/composition/ar/photo-angles/>

【カメラアングルの決め方】

#1 アングルとポジションのちがい

まずは「アングル」と「ポジション」の違いを理解しましょう

横文字だとすこし混同しやすい2つですがそれぞれ日本語に直すと

アングル = 「角度」アングルとはカメラを向ける角度のことをいいます

種類は全部で3つ

- ・被写体を下から煽って撮影する「ローアングル」
- ・被写体を水平角度から撮影する「水平アングル」
- ・被写体を上から見下ろすように撮影する「ハイアングル」

注意しないといけないのはアングルとは「カメラの向ける角度」だということ

たとえカメラ自体が高いところにあっても撮影のためにカメラを上に向けて

撮っていればそれは「ローアングル」です

ポジション = 「位置」

ポジションはカメラの構える位置です

こちらも高さ別に3種類

- ・目線より高い場所で構える「ハイポジション」
- ・目線と同じ高さで構える「アイレベル」
- ・自分の腰より低い位置で構える「ローポジション」

ポジションを指定するときはカメラがどこを向いているのか（＝アングル）は関係ありません

出典

[【カメラアングルの決め方】](#)

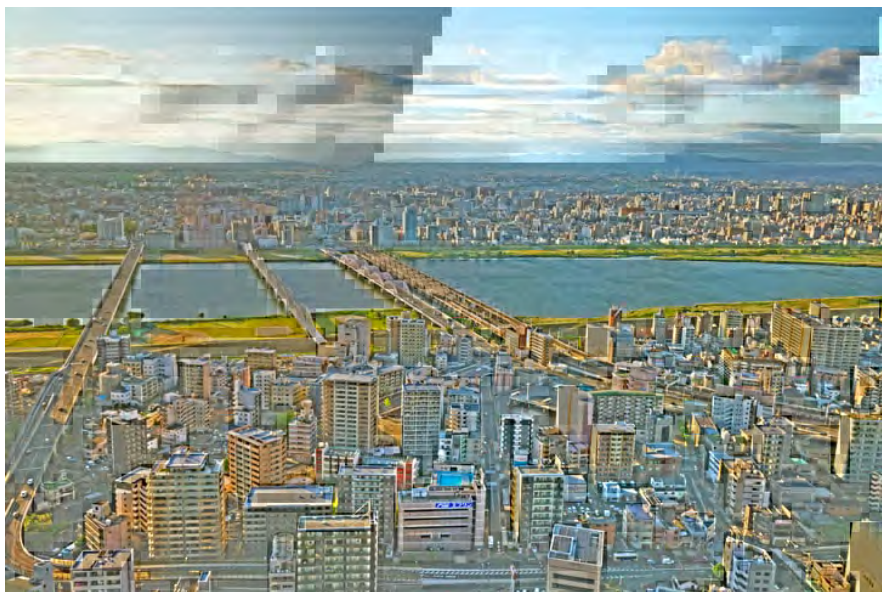
[効果的に写真の構図を使い分けよう](#)

FOTORIA (20181005 金)

<https://fotoria.net/ja/blog/bc/photo-shoot-techniques/sc/composition/ar/photo-angles/>

【カメラアングルの決め方】

#2 ハイアングル



ハイアングルは「被写体を上から見下ろすように撮影する角度」でした。

ハイアングルで撮られた写真から受ける印象とはどんなものでしょう？

「見下ろす」。つまりは被写体を俯瞰しているとも言えるため

- ・町や建築物なら客観性
(どんな街並み・建物なのか)
- ・ポートレートや動物なら愛嬌や可愛さ
(上目遣い) といったイメージを見る側に与えることができます。

客観性にはその写真を通して被写体がどんなものであるかを説明する役割があります。街並みなどは広角レンズと組み合わせることで「町並みの壮大さ」を演出することも可能です。

ポートレートではハイアングルの撮影により愛嬌や可愛さを表現することが可能です。

出典

[【カメラアングルの決め方】
効果的に写真の構図を使い分けよう](#)

FOTORIA (20181005 金)

<https://fotoria.net/ja/blog/bc/photo-shoot-techniques/sc/composition/ar/photo-angles/>

【カメラアングルの決め方】

#3 水平アングル



水平アングルは「被写体を水平角度から撮影する」ことでした

被写体に対して水平角度なので普段見ている景色とあまり変わらない角度からの撮影になりますつまり既視感や安心感を見ている人に伝えることができますが、一方で何も意識していない写真だと味気ないものになりがちです

ではいったいどうしたらいいのでしょうか？

答えは「シンプルな構図」と「情報の断捨離」普段見慣れている景色だからこそ必要のないものは断捨離を行いシンプルに

「日の丸構図」や「トンネル構図」といったシンプルな構図で被写体への視線を誘導するのも良いでしょう

左の写真でも白鳥の羽根を真ん中に起き他の情報を「引いて」います。

水平アングルでも視線は自然と「今飛び立とうとする白鳥」に引き込まれるわけですね

出典

[【カメラアングルの決め方】
効果的に写真の構図を使い分けよう](#)

FOTORIA (20181005 金)

<https://fotoria.net/ja/blog/bc/photo-shoot-techniques/sc/composition/ar/photo-angles/>

【カメラアングルの決め方】

#4 ローアングル



被写体に対して下から煽るように撮影するローアングルはローポジションと組み合わせることで小さな生き物が自分を取りかこむ全てのものから見下ろされているかのような意識で写真の世界観に引き込むことが可能です

特に「普段見上げることのないもの」は相性がよく人の心を惹きつけるでしょう
たとえば花はもっとも典型的な被写体です。通常、私たちはいつも花を見下ろしています
いつも見ている景色からあえてローアングル・ローポジションから撮影することで、地面に根を張り、凛として咲く花の生命の力強さを感じさせるとともに、上の写真のように花畑などであれば多くの花とともに群生している様子から壮大さも表現できますね

広角レンズとの組み合わせで建築物を地面から近い角度で撮ることで迫力や威厳を表現したり、ポートレートでは遠近法により足が近くに、顔が遠くに置くことで顔が小さく、足を長く見せることもできます

出典

[【カメラアングルの決め方】
効果的に写真の構図を使い分けよう](#)

FOTORIA (20181005 金)

<https://fotoria.net/ja/blog/bc/photo-shoot-techniques/sc/composition/ar/photo-angles/>

【カメラアングルの決め方】

#5 まとめ



今回紹介した**3つのアングル**を撮影で意識することによってあなたの表現の幅はグッと広がります

**自分はこの写真で何を撮りたいのか？
それはどんなテーマを見る人に伝えたいのか**

それならこの角度から撮るのが良いのではないだろうか
場合によっては同じものをいろんな角度からとって見るのもいいでしょう

**表現したいイメージに合わせて
「アングル」と「ポジション」を組み合わせる**

**今回学んだことを生かして
「初心者っぽい写真」から卒業
しましょう！**

出典

[【カメラアングルの決め方】
効果的に写真の構図を使い分けよう](https://fotoria.net/ja/blog/bc/photo-shoot-techniques/sc/composition/ar/photo-angles/)

FOTORIA (20181005 金)

<https://fotoria.net/ja/blog/bc/photo-shoot-techniques/sc/composition/ar/photo-angles/>

【一眼レフカメラで風景写真をとる際に気をつけたいこと】



「一眼レフで風景写真をキレイに撮りたい」「自分で撮った写真がいまいちパツとしない」「いつも同じような写真になってしまう」このように悩んだことはありませんか？

目の前に広がる自然の魅力を写真から伝えるためにはどうしたらいいのでしょうか

この記事ではそんな風景写真をとる時のコツについてご紹介します

出典

[一眼レフカメラで風景写真をとる際に気をつけたいこと](https://fotoria.net/ja/blog/bc/photo-shoot-techniques/sc/how-to-shoot/ar/landscape-pictures/)

FOTORIA (20190528火)

<https://fotoria.net/ja/blog/bc/photo-shoot-techniques/sc/how-to-shoot/ar/landscape-pictures/>

【一眼レフカメラで風景写真をとる際に気をつけたいこと】

#1 各種設定に気を配る



出典

[一眼レフカメラで風景写真をとる際に
気をつけたいこと](https://fotoria.net/ja/blog/bc/photo-shoot-techniques/sc/how-to-shoot/ar/landscape-pictures/)

FOTORIA (20190528火)

<https://fotoria.net/ja/blog/bc/photo-shoot-techniques/sc/how-to-shoot/ar/landscape-pictures/>

いまいち分からないからと闇雲にシャッターを切っていませんか？

- ・絞り（F値）
- ・シャッター速度
- ・ISO感度
- ・ホワイトバランス
- ・絞り優先モード
- ・シャッター速度優先モード
- ・プログラムオート

などなど、カメラには設定がたくさんあるので、まずは簡単な設定から見直してみましよう

—夜景で暗くてもISO感度を上げすぎない

—**f値はF8~**

少し細かい話になりますが、**風景写真のF値は8~11程度が理想**とされています

これにはF値とレンズが大きく関係しています

【一眼レフカメラで風景写真をとる際に気をつけたいこと】

#2 レンズを選ぶ



出典

一眼レフカメラで風景写真をとる際に
気をつけたいこと

FOTORIA (20190528火)

<https://fotoria.net/ja/blog/bc/photo-shoot-techniques/sc/how-to-shoot/ar/landscape-pictures/>

「風景写真とレンズ」の相性について知っておくと良いでしょう

一おすすめは広角レンズ

今の画角に満足していない、広々とした自然の様子を余すことなく切り取りたい そういった方で、レンズ選びに困っているなら広角レンズが良いでしょう

ズームレンズや単焦点レンズでも焦点距離を短くすることで、広角気味に撮影も可能ですが、やはり専門のレンズには及びません

一風景写真と単焦点レンズの関係性

単焦点レンズを使用してみるのもひとつの手です 確かに、単焦点レンズといえは主にポートレートの影響が強いかもかもしれませんが

- ・同じ焦点距離のズームレンズより明るい
- ・ズームレンズに比べて軽い
- ・焦点距離が決められているので、試行錯誤するようになるなど単焦点だからこそ、自分の頭で考えるようになるメリットもあります

【一眼レフカメラで風景写真をとる際に気をつけたいこと】

#3 道具やその他ロケーションへの注意点



出典

[一眼レフカメラで風景写真をとる際に
気をつけたいこと](https://fotoria.net/ja/blog/bc/photo-shoot-techniques/sc/how-to-shoot/ar/landscape-pictures/)

FOTORIA (20190528火)

<https://fotoria.net/ja/blog/bc/photo-shoot-techniques/sc/how-to-shoot/ar/landscape-pictures/>

その他ちょっとしたことに気をつけるだけでも写真は変わるのでチェックしてみてください

ー三脚を使おう

風景写真とはいえ、三脚で固定してとる方が安定した撮影が可能です

集合写真用にも使えるので、導入してみてください
損はない機材でしょう

ーピントが合わないときは...

ピントが合わない時は先ほどの三脚を使うことはもちろんですが、そういった固定できるものが手元にない場合は前述したF値の調節で写真全体のブレや解像度を改善してみたり、シャッター速度を早くしてみると良いでしょう

【一眼レフカメラで風景写真をとる際に気をつけたいこと】

#4 少しの意識で写真は大きく変わる！



風景写真の撮影方法だけでなく、機材や設定までキレイに撮影するためのポイントをいくつか紹介いたしました

情報量が多く、写真が少し難しいものを感じた方もいるかもしれませんが、しかし、誰でも最初は初心者です。ああでもない、こうでもないという試行錯誤しながらプロの写真家も多くの人を惹きつける写真を撮れるまで腕を磨いてきたのです

一気に全て実行しようとするのではなく、少しずつ設定や環境を変えてどのように変化が起きたのか感じながら自分のレベルアップを感じ、楽しいカメラライフを送りましょう

出典

[一眼レフカメラで風景写真をとる際に気をつけたいこと](https://fotoria.net/ja/blog/bc/photo-shoot-techniques/sc/how-to-shoot/ar/landscape-pictures/)

FOTORIA (20190528火)

<https://fotoria.net/ja/blog/bc/photo-shoot-techniques/sc/how-to-shoot/ar/landscape-pictures/>

【一眼レフでイメージ通りに撮影できる！詳しい設定方法】

一眼レフ基本の設定項目

初心者におすすめのカメラ設定基本パターン表



出典

[一眼レフでイメージ通りに撮影できる！
詳しい設定方法](https://goopass.jp/magazine/setting/)

GOOPASS (20231010火)
<https://goopass.jp/magazine/setting/>

項目	基本設定
撮影モード	AV
A Fフレーム 選択	任意選択
絞り (F値)	F 4.0
I S O感度	AUTO
露出補正	+ 1
ピクチャースタイル	S
ホワイトバランス	AWB
オートライティングオプティマイザ	標準
測光モード	評価測光
A F動作	ONE SHOT
ドライブ	1 枚撮影
記録画質	M Fine

第1章 基礎編 第4部 撮影の基本（構図・アングル・カメラの設定）

【非売品】 無断複写、複製、再配布厳禁
初心者のためのデジタル写真講座 教材
第1章 基礎編
第4部 構図・アングル・カメラの設定
企画制作発行 デジタルライフ研究会
<https://digitalstudy.site/>
第1版 2024年02月19日（月）発行

※ 本資料はデジタル写真講座でのみ使用する教材です

ご清聴ありがとうございました